

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月10日

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6460 URL <https://www.segasammy.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長グループCEO (氏名) 里見 治紀
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員財務経理本部長 (氏名) 大脇 洋一 (TEL) 03-6864-2400
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	236,752	12.6	32,668	141.5	33,393	165.6	29,456	—
2021年3月期第3四半期	210,177	△25.2	13,527	△51.8	12,574	△51.4	△6,239	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 31,926百万円(—%) 2021年3月期第3四半期 △8,432百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	125.39	124.96
2021年3月期第3四半期	△26.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	442,177	303,157	68.5
2021年3月期	421,599	291,256	69.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 303,004百万円 2021年3月期 290,759百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	10.00	—	20.00	30.00
2022年3月期	—	20.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	315,000	13.4	31,000	373.1	30,000	—	26,500	—	113.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 1社(社名) 株式会社セガグループ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	266,229,476株	2021年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	34,506,763株	2021年3月期	31,142,581株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	234,913,033株	2021年3月期3Q	235,091,576株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2022年2月10日に機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容(映像並びに音声)については、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	210,177	236,752	26,575	12.6
営業利益	13,527	32,668	19,140	141.5
経常利益	12,574	33,393	20,819	165.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△6,239	29,456	35,696	—
	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	△26.54	125.39	151.93	—

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境としては、コンシューマ分野におきまして、デジタル化の進展に伴い、PCや家庭用ゲーム機などにおけるダウンロード販売の拡大や、クラウドゲームサービスの登場、プラットフォームの多様化など、市場環境には大きな変化が見られます。また、新たなビジネスモデルやサービスによる収益機会の多様化も期待され、グローバルでのゲーム市場の活性化や成長に関心が高まっています。アミューズメント機器市場につきましては、好調なプライズカテゴリーが牽引し新型コロナウイルス感染症拡大前の水準への回復傾向が見られたものの、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株の出現による影響が懸念されます。

遊技機業界におきましては、本年1月末の旧規則機撤去期限に向けて、パチンコ遊技機については新規規則機の人気タイトルが複数登場するなどにより、入替は順調に進んでおります。パチスロ遊技機については比較的低調に推移しておりますが、今後も引き続きゲーム性の幅が広がることによって、ユーザーに支持されるタイトルの導入が期待されます。一方で、世界的な半導体不足及び物流の混乱により、部材供給体制が不安定に推移しており、引き続き注視が必要です。

リゾート業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により旅行需要は低調に推移しております。国内においては昨年9月の緊急事態宣言解除等に伴い、昨年末にかけて需要は一時的に回復しましたが、新たな変異株の出現による影響が懸念されます。なお、日本国内におけるIR事業につきましては、特定複合観光施設区域整備計画の申請期間が本年4月28日迄であり、誘致を希望する地方自治体では申請に向け準備が進められております。

このような経営環境のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は236,752百万円（前年同期比12.6%増）、営業利益は32,668百万円（前年同期比141.5%増）、経常利益は33,393百万円（前年同期比165.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は29,456百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失6,239百万円）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	167,603	177,852	10,248	6.1
セグメント間売上高	534	489	—	—
売上高合計	168,138	178,342	10,204	6.1
経常利益	33,196	36,848	3,652	11.0

コンシューマ分野におきましては、フルゲームについては、8年ぶりのシリーズ完全新作となる『真・女神転生V』や、『Football Manager 2022』、『たべごろ！スーパーモンキーボール 1&2リメイク』を発売し好調に推移したほか、レポートタイトルについても堅調に推移したことにより、販売本数は2,197万本（前年同期は3,420万本の販売）となりました。また、一部のタイトルについてロイヤリティ収入を計上しております。F2Pについては、9月末にリリース1周年を迎えた『プロジェクトセカイ カラフルステージ！ feat. 初音ミク』が好調に推移したほか、『PSO2 ニュージェネシス』の大型アップデートを実施しました。

アミューズメント機器分野におきましては、新作音楽ゲーム『CHUNITHM NEW（チュウニズム ニュー）』を発売したほか、プライズやUFOキャッチャー® シリーズ等の販売が好調に推移いたしました。

映像・玩具分野におきましては、映像制作や配信に伴う収入等を計上し、玩具においては年末商戦において『カメラもIN！マウスでせかせい！すみっくぐらしパソコンプレミアム』や『鬼滅の刃POD』等の新製品や定番製品を販売し、好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は177,852百万円（前年同期比6.1%増）、経常利益は36,848百万円（前年同期比11.0%増）となりました。

《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	37,372	51,849	14,477	38.7
セグメント間売上高	240	213	—	—
売上高合計	37,612	52,063	14,451	38.4
経常利益	△8,771	6,025	14,797	—

パチスロ遊技機におきましては、『パチスロANEMONE 交響詩篇エウレカセブン HI-EVOLUTION』等の販売を行い、48千台の販売（前年同期は12千台の販売）、パチンコ遊技機におきましては、『P北斗の拳9 闘神』等の販売を行い、64千台の販売（前年同期は59千台の販売）となり、利益を計上いたしました。また、前期実施の構造改革効果等により、固定費は引き続き低水準で推移しております。

以上の結果、売上高は51,849百万円（前年同期比38.7%増）、経常利益は6,025百万円（前年同期は経常損失8,771百万円）となりました。

《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	4,886	6,682	1,796	36.8
セグメント間売上高	77	134	—	—
売上高合計	4,963	6,817	1,854	37.4
経常利益	△6,647	△4,645	2,002	—

リゾート事業におきましては、『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、昨年9月の緊急事態宣言解除や、県及び独自の観光需要施策が寄与し、施設利用者数は「Go To トラベル事業」効果を大きく取り込んだ前年の第3四半期会計期間と比較して111.4%となりました。

海外におきましては、PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が運営する『パラダイスシティ』において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う各国の渡航制限の影響等により、2021年1月～9月のドロップ額（テーブルにおけるチップ購入額）が前年同期比で47.8%、カジノ来場者数が前年同期比58.4%となる等、大幅な落ち込みが見られました。

※PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd. は12月決算のため3ヶ月遅れで計上

以上の結果、売上高は6,682百万円（前年同期比36.8%増）、経常損失は4,645百万円（前年同期は経常損失6,647百万円）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年11月8日に公表した通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、2022年2月10日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	154,972	110,240
受取手形及び売掛金	38,176	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	51,690
有価証券	721	40,000
商品及び製品	7,514	11,161
仕掛品	31,941	43,108
原材料及び貯蔵品	13,456	16,074
その他	29,812	24,866
貸倒引当金	△298	△324
流動資産合計	276,295	296,817
固定資産		
有形固定資産		
土地	18,396	18,356
その他(純額)	43,221	41,284
有形固定資産合計	61,617	59,641
無形固定資産		
のれん	4,711	3,633
その他	10,288	10,401
無形固定資産合計	14,999	14,034
投資その他の資産		
投資有価証券	38,323	35,987
その他	30,776	36,090
貸倒引当金	△413	△394
投資その他の資産合計	68,686	71,684
固定資産合計	145,304	145,359
資産合計	421,599	442,177

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,994	24,910
短期借入金	—	10,000
未払法人税等	839	3,184
引当金	9,416	4,347
資産除去債務	105	199
その他	32,421	38,341
流動負債合計	59,777	80,983
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	42,000	32,000
退職給付に係る負債	4,542	4,590
資産除去債務	2,933	2,709
解体費用引当金	420	420
その他	10,669	8,316
固定負債合計	70,566	58,036
負債合計	130,343	139,019
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	118,048	117,689
利益剰余金	200,551	217,114
自己株式	△53,561	△59,993
株主資本合計	294,991	304,762
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,930	2,111
繰延ヘッジ損益	△725	△131
土地再評価差額金	△1,109	△1,109
為替換算調整勘定	△3,867	△2,467
退職給付に係る調整累計額	△459	△162
その他の包括利益累計額合計	△4,231	△1,758
新株予約権	—	101
非支配株主持分	496	51
純資産合計	291,256	303,157
負債純資産合計	421,599	442,177

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	210,177	236,752
売上原価	126,969	137,321
売上総利益	83,207	99,430
販売費及び一般管理費	69,679	66,762
営業利益	13,527	32,668
営業外収益		
受取利息	94	84
受取配当金	348	123
投資事業組合運用益	191	2,330
為替差益	—	664
投資有価証券評価益	4,294	—
その他	679	458
営業外収益合計	5,609	3,660
営業外費用		
支払利息	344	217
持分法による投資損失	4,121	1,767
支払手数料	78	79
投資事業組合運用損	321	304
為替差損	1,344	—
その他	352	566
営業外費用合計	6,563	2,935
経常利益	12,574	33,393
特別利益		
固定資産売却益	9	1,988
投資有価証券売却益	8,491	16
関係会社株式売却益	430	698
その他	1,464	51
特別利益合計	10,395	2,754
特別損失		
固定資産売却損	0	5
減損損失	135	390
投資有価証券評価損	0	—
新型コロナウイルス感染症による損失	2,665	111
構造改革費用	29,043	—
その他	0	47
特別損失合計	31,844	555
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)	△8,874	35,592
法人税、住民税及び事業税	△4,022	6,322
法人税等調整額	760	△181
法人税等合計	△3,261	6,140
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△5,613	29,451
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,239	29,456
非支配株主に帰属する四半期純利益 又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	626	△5

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,781	174
繰延ヘッジ損益	△8	△14
為替換算調整勘定	896	1,413
退職給付に係る調整額	102	297
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,027	604
その他の包括利益合計	△2,819	2,474
四半期包括利益	△8,432	31,926
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△9,061	31,930
非支配株主に係る四半期包括利益	628	△4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、当社の特定子会社であった株式会社セガグループは、当社の連結子会社である株式会社セガを存続会社、株式会社セガグループを消滅会社とする吸収合併により消滅したため、当社の特定子会社に該当しないこととなり、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2020年3月31日 企業会計基準第29号。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、一部製品のコンテンツ更新権の販売について、従来はコンテンツ更新権の販売時に一時点で収益を認識する方法によっておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。また、一部商品の消化仕入れ販売に係る収益について、従来は総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。なお、当第3四半期連結累計期間の損益及び利益剰余金の当期首残高に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2019年7月4日 企業会計基準第30号。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2019年7月4日 企業会計基準第10号)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りに関して、前連結会計年度の有価証券報告書に記載いたしました仮定に重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	エンタテインメン トコンテンツ事業	遊技機事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	167,603	37,372	4,886	209,862	314	210,177
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	534	240	77	851	△851	—
計	168,138	37,612	4,963	210,714	△536	210,177
セグメント利益又は損失(△)	33,196	△8,771	△6,647	17,776	△5,202	12,574

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△5,202百万円には、セグメント間取引消去14百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,216百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	エンタテインメン トコンテンツ事業	遊技機事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	177,852	51,849	6,682	236,385	366	236,752
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	489	213	134	838	△838	—
計	178,342	52,063	6,817	237,224	△471	236,752
セグメント利益又は損失(△)	36,848	6,025	△4,645	38,229	△4,836	33,393

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△4,836百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,837百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。